

サクセス*基本文法*ノート

《分詞構文とは》

★**定義**：動詞が変形(=分化)して形容詞の役割を持つようになった「分詞」である「現在分詞(=動詞+ing)」又は「過去分詞(=動詞の過去分詞形)」から始まる文で、その分詞が「動詞」と「接続詞」を兼ねて「副詞」句となって用いられるもの。主語は省かれる。置く場所[位置]に厳密なルールがあるわけではなく、文頭・文中・文尾のどこにも置くことができ、文脈・意味・重点度などによって決まると言える。

★**意味・用法は次の5つ**

(1) **時** (=～するとき、～すると) (☞ 文頭に置くのが普通)

Arriving at the station, he gave me message.

駅に着くと彼がメッセージをくれた。

Left to herself, she began to weep.

一人になると、彼女は泣き出した。

(2) **原因・理由** (=～なので) (☞ 文頭にくる場合が多い)

Getting up late, I had to run.

起きるのが遅かったので、私は走らなければならなかった。

(Being) Badly injured, she couldn't walk.

ひどく怪我をしたので、彼女は歩けなかった。

(Having been) Born in America, he is proficient in English.

アメリカで生まれたので、彼は英語が得意だ。

(注) 受け身の動作・状態を表す分詞構文では、being が文頭にくるときには通常これを省略する (having been の場合でも省略可)。

(3) **譲歩** (=～だけれども) (☞ 文頭にくるのがふつう。文中も可)

Admitting what I say, he still thinks I am wrong.

私の言っていることを認めてはいるが、彼はまだ私が間違っていると思っている。

(4) **条件** (=もし～ならば) (☞ 文頭にくるのが一般的。文中も可)

Turning left at the next corner, you will find a tall building.

次の角を左に曲がれば、高い建物がみつかるでしょう。

(5) **付帯状況** (=～しながら／～して、そして)

(☞ 動作・出来事が同時の場合は文頭に、連続する場合には文尾(or 文中)に置く)

Reading a book, he waited for his mother.

本を読みながら、彼は母を待った。

A young man came up to her, asking her to dance with him.

一人の若い男が彼女のところにやってきて、自分と踊ってくれと頼んだ。

Persuaded by his friends, Brutus made up his mind to kill Caesar.

友人たちに説き伏せられて、ブルータスはシーザーを殺そうと決心した。

(注) **過去分詞**用法では他動詞の過去分詞の場合がふつうで、受動的な意味を表す。自動詞の場合は動きや変化を示す(arrive や return など)が、あまり多くは用いられない。